PIO-NETの危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報

1 危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報

全国消費生活情報ネットワーク・システム（PIO-NET：パイオネット）では、全国の消費生活センターに寄せられる商品･役務･設備に関連して身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けた情報（以下、「危害情報」という）、および、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（以下、「危険情報」という）を収集している。また、医療機関ネットワーク事業[*1]（以下、「医療機関ネットワーク」という）では、消費生活において生命または身体に被害を生じる事故にあい、医療機関を利用した被害者から情報を収集している。

本章では、2013年度にPIO-NETにより収集した「危害・危険情報」[*2]と、医療機関ネットワークに参画している24医療機関から収集した情報をまとめた。

2013年度の傾向と特徴

- 全国の消費生活センターから収集した「危害・危険情報」は20,603件で、対前年度比でみると39.5％増である。医療機関ネットワークの参画医療機関から収集した情報（基本情報）は6,906件で、対前年度比38.0％増である。いずれも過去最多の件数となっている。
- 「危害情報」は13,700件であり、上位３商品･役務は「化粧品」「調理食品」「医療サービス」である。「危険情報」は6,903件であり、上位３商品･役務は「調理食品」「四輪自動車」「菓子類」である。
- 「危害情報」の約3,100件の増加については、前年度同様１位の「化粧品」が自主回収している薬用化粧品の白斑トラブルに関するもの（437件）[*3]などにより約900件増加したことや、前年度８位の「調理食品」が冷凍食品への農薬（マラチオン[*4]）混入事案に関するもの（965件）などにより約1,100件増加したことが大きく影響している。
- 「危険情報」の約2,700件の増加については、前年度２位の「調理食品」が、冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するもの（2,211件）などにより約2,300件増加したことが大きく影響している。
- 医療機関ネットワークの情報は、2012年度までは13医療機関からの収集であったが、2013年度は24医療機関からの収集となり、約1,900件増加した。

＊１　「医療機関ネットワーク事業」とは、消費生活において生命および身体に生ずる被害に関する事故等の概要や発生時の状況などの情報を医療機関から収集し、注意喚起などに活用することを目的としている事業。消費者庁との共同事業であり、2010年12月より情報収集を開始している。
＊２　データは2014年５月末までの登録分。なお、2007年度から、国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いている。
＊３　データは消費者庁が独自に精査したもの。
＊４　マラチオンは、有機リン系の殺虫剤であり、中毒症状としては吐き気・おう吐・唾液分泌過多、発汗過多、下痢、腹痛、軽い縮瞳等が知られている。（厚生労働省ホームページ「農薬（マラチオン）を検出した冷凍食品の自主回収について」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000034127.htmlより）

2 消費生活センターに寄せられた危害情報の概要

2013年度に消費生活センターから収集した危害情報は13,700件で、前年度（10,599件）と比べると3,101件もの増加（前年度比29.3％の増加）である（**表18、図10** 48頁）。

これは、自主回収している薬用化粧品の白斑トラブルに関するもの（437件）などにより、前年度１位の「化粧品」が908件増加したことと、冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するもの（965件）などにより、前年度８位の「調理食品」が1,093件増加したことが大きく影響している。その他、「洗濯用洗浄剤」が246件、「医療サービス」が206件、「健康食品」が123件増加している（**表24** 61頁）。

表18　危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報の収集件数の推移

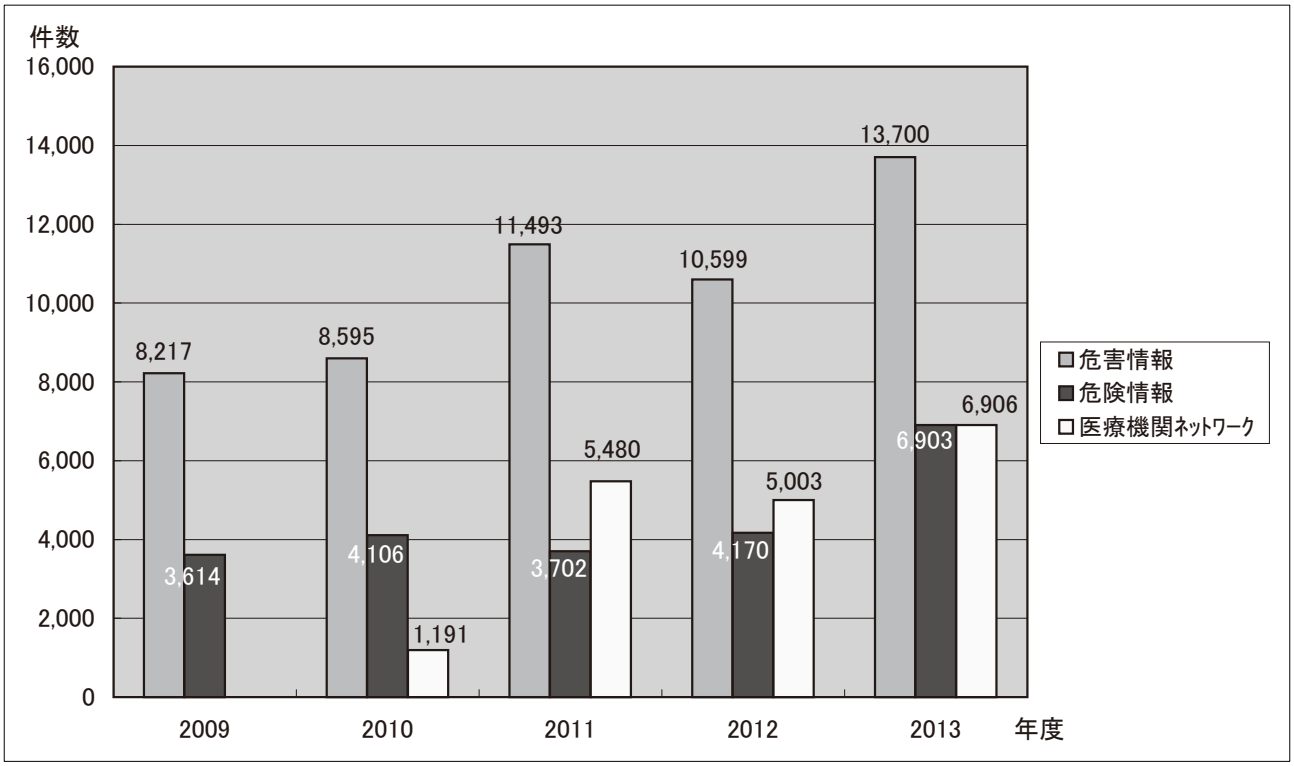
（件）

年度	消費生活センター				医療機関ネットワーク		計（A＋B）	対前年度比
	危害	危険	計（A）	対前年度比	危害（B）	対前年度比		
1975	292	345	**637**					
1976	528	708	**1,236**	194.0				
1977	907	834	**1,741**	140.9				
1978	1,009	1,223	**2,232**	128.2				
1979	979	1,200	**2,179**	97.6				
1980	929	1,318	**2,247**	103.1				
1981	948	1,850	**2,798**	124.5				
1982	1,292	1,516	**2,808**	100.4				
1983	1,115	1,331	**2,446**	87.1				
1984	1,413	1,294	**2,707**	110.7				
1985	1,640	1,119	**2,759**	101.9				
1986	1,567	1,279	**2,846**	103.2				
1987	1,603	1,111	**2,714**	95.4				
1988	1,640	1,074	**2,714**	100.0				
1989	1,650	1,165	**2,815**	103.7				
1990	1,734	1,196	**2,930**	104.1				
1991	1,650	1,089	**2,739**	93.5				
1992	1,834	1,110	**2,944**	107.5				
1993	2,206	1,725	**3,931**	133.5				
1994	2,449	2,534	**4,983**	126.8				
1995	3,934	3,324	**7,258**	145.7				
1996	4,978	4,009	**8,987**	123.8				
1997	5,035	2,688	**7,723**	85.9				
1998	4,889	1,967	**6,856**	88.8				
1999	5,106	1,936	**7,042**	102.7				
2000	6,199	3,109	**9,308**	132.2				
2001	5,670	2,578	**8,248**	88.6				
2002	7,612	2,588	**10,200**	123.7				
2003	6,543	2,132	**8,675**	85.0				
2004	5,848	2,434	**8,282**	95.5				
2005	6,511	2,819	**9,330**	112.7				
2006	7,054	3,597	**10,651**	114.2				
2007	8,545	4,558	**13,103**	123.0				
2008	8,434	3,974	**12,408**	94.7				
2009	8,217	3,614	**11,831**	95.3				
2010	8,595	4,106	**12,701**	107.4	**1,191**	-	**13,892**	-
2011	11,493	3,702	**15,195**	119.6	**5,480**	460.1	**20,675**	148.8
2012	10,599	4,170	**14,769**	116.3	**5,003**	420.1	**19,772**	142.3
2013	13,700	6,903	**20,603**	139.5	**6,906**	138.0	**27,509**	139.1
計	**166,347**	**89,229**	**255,576**		**18,580**		**81,848**	

（注１）2014年５月末日までの登録分。消費生活センター（A）は2007年度から国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いている。

（注２）医療機関ネットワーク（B）の2010年度の件数は2010年12月から2011年３月末までのものである。

図10　危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報の収集件数の推移



（注１）2014年５月末日までの登録分。消費生活センターの危害情報、危険情報は、国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。
（注２）2010年度の医療機関ネットワークの件数は2010年12月から2011年３月末までのものである。

（1）危害情報の商品等分類別件数

危害情報を商品等分類別にみると（**表19** 49頁）、最も多かったのは「化粧品」「医薬品類」などの「保健衛生品」3,271件（23.9％）である。「化粧品」が908件増加したため、前年度（２位、2,277件）から994件増加し、順位も上昇している。

２位は「調理食品」「健康食品」「飲料」「菓子類」などの「食料品」3,138件（22.9％）である。「調理食品」が1,093件増加し、さらに「健康食品」も123件増加したため、前年度（３位、1,792件）から1,346件増加し、順位も上昇している。

３位は「医療サービス」「エステティックサービス」「歯科治療」「美容院」などの「保健・福祉サービス」3,073件（22.4％）である。前年度（１位、2,844件）から順位は下がったものの、「医療サービス」の206件の増加を含め、229件増加している。

４位は「洗濯用洗浄剤」「家具類」「ふとん類」などの「住居品」1,306件（9.5％）である。前年度（４位、1,002件）と同じ順位であるが、「洗濯用洗浄剤」の246件の増加を含め、304件増加している。

５位は「外食」などの「他のサービス」585件（4.3％）である。前年度（５位、563件）から22件のみの増加であり、同じ順位である。

６位から10位は、６位が「靴・運動靴」などの「被服品」454件（3.3％）、７位が「携帯電話」などの「教養娯楽品」411件（3.0％）、８位が「宿泊施設」「スポーツ・健康教室」などの「教養・娯楽サービス」302件（2.2％）、９位が「自転車」などの「車両・乗り物」286件（2.1％）、10位が「賃貸アパート・マンション」などの「レンタル・リース・貸借」218件（1.6％）である。

表19　危害情報の商品等分類別件数および主な商品・役務（消費生活センター）

商品等分類	件数	割合(%)	主な商品・役務
食料品	3,138	22.9	調理食品（1,407）、健康食品（655）、飲料（259）、菓子類（186）、他の魚介加工品（82）
住居品	1,306	9.5	洗濯用洗浄剤（317）、家具類（199）、ふとん類（120）、他の住居洗浄剤（46）、電気掃除機類（31）
光熱水品	30	0.2	他の光熱水品（11）、石油（10）、電気（6）
被服品	454	3.3	靴・運動靴（124）、婦人下着（45）、他の身の回り品（42）、婦人洋服（41）、アクセサリー（38）
保健衛生品	3,271	23.9	化粧品（2,313）、医薬品類（194）、他の保健衛生用品（146）、家庭用電気治療器具（130）、メガネ・コンタクトレンズ（104）
教養娯楽品	411	3.0	携帯電話（66）、健康器具（54）、タバコ用品（44）、園芸用品（23）、パソコン（18）、玩具・遊具その他（18）
車両・乗り物	286	2.1	自転車（138）、四輪自動車（70）、ベビーカー（14）、自動二輪車（14）、自転車用品（9）
土地・建物・設備	152	1.1	電気温水器（35）、戸建住宅（22）、建具（18）、分譲マンション（14）、他の浴室関連設備（7）、ソーラーシステム（7）
クリーニング	11	0.1	クリーニング（11）
レンタル・リース・貸借	218	1.6	賃貸アパート・マンション（182）、借家（12）、レンタルサービスその他（8）
工事・建築・加工	124	0.9	新築工事（33）、内装工事（26）、増改築工事（20）、塗装工事（19）、衛生設備工事（8）
修理・補修	27	0.2	修理サービス（22）、車検サービス（5）
運輸・通信サービス	100	0.7	鉄道サービス（24）、バスサービス（22）、タクシーサービス（10）、航空サービス（9）、引越（9）
教養・娯楽サービス	302	2.2	宿泊施設（73）、スポーツ・健康教室（73）、スポーツ施設利用（36）、遊園地・レジャーランド（24）、遊興施設利用（23）
保健・福祉サービス	3,073	22.4	医療サービス（1,056）、エステティックサービス（661）、歯科治療（301）、美容院（300）、他の理美容サービス（131）
他のサービス	585	4.3	外食（459）、食事・食材宅配（22）、損害保険（15）、ハウスクリーニング（13）、他の行政サービス（13）
その他	212	1.5	商品一般（199）、他の商品（13）
合　計	**13,700**	**100**	

（注）「主な商品・役務」は各商品等分類における上位５位の商品・役務。ただし、５件未満は除く。2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

(2) 危害情報の商品・役務別件数

危害情報を商品・役務別にみると（**表24** 61頁）、最も多かったのは「化粧品」2,313件（16.9%）である。前年度（１位、1,405件）と同じ順位であるが、自主回収している薬用化粧品の白斑トラブルに関するもの437件などにより、908件増加している。

２位は「調理食品」1,407件（10.3%）である。冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するもの965件などにより、前年度（８位、314件）から1,093件増加し、順位も大きく上昇している。

３位は「医療サービス」1,056件（7.7%）である。前年度（２位、850件）から順位は下がったものの、顔のリフトアップなどの「美容医療」の110件の増加を含め、206件増加している。

４位は「エステティックサービス」661件（4.8%）である。前年度（３位、590件）から順位は下がったものの、リラクゼーションを目的としたマッサージなどの「他のエステサービス」の34件の増加を含め、71件増加している。

５位は「健康食品」655件（4.8%）である。前年度（４位、532件）から順位は下がったものの、プラセンタなどの「他の健康食品」の67件の増加を含め、123件増加している。

６位から10位は、６位が「外食」459件（3.4%）、７位が「柔軟仕上げ剤」などの「洗濯用洗浄剤」317件（2.3%）、８位が「歯科治療」301件（2.2%）、９位が「美容院」300件（2.2%）、10位が「飲料」259件（1.9%）である。

(3) 危害内容

危害内容では、最も多かったのは「皮膚障害」4,030件（29.4％）である（**表20**）。内容としては「化粧品」「エステティックサービス」「医療サービス」などに関するものが多い。「化粧品」の998件の増加を含め、前年度（２位、2,669件）から1,361件増加し、順位も上昇している（**表26** 62頁）。

２位は、「その他の傷病及び諸症状」3,609件（26.3％）である。内容としては「医療サービス」「洗濯用洗浄剤」「歯科治療」「健康食品」などに関するものが多く、体調がすぐれない、気分が悪い、痛みがあるなどの症状が多い。前年度（１位、3,092件）から順位は下がったものの、「洗濯用洗浄剤」の190件の増加を含め517件増加している。

３位は「消化器障害」2,015件（14.7％）である。内容としては「調理食品」「健康食品」「外食」「飲料」などに関するものが多い。前年度（３位、1,021件）と順位は同じであるが、「調理食品」の918件の増加を含め、994件増加している。

４位は「擦過傷･挫傷･打撲傷」の858件（6.3％）である。内容としては「エステティックサービス」「自転車」「靴・運動靴」や店舗内の転倒などに関するものが多い。「エステティックサービス」の31件の増加、「自転車」の26件の増加、「靴・運動靴」の21件の増加などを含め、前年度（５位、691件）から167件増加し、順位も上昇している。

５位は「熱傷」765件（5.6％）である。内容としては「エステティックサービス」「医療サービス」「外食」「携帯電話」などに関するものが多い。前年度（４位､813件）から48件減少したため､順位も下がっているが、前年度に急増したスマートフォンなどの「携帯電話」が46件と高止まりしている。

６位は「刺傷･切傷」734件（5.4％）である。内容としては「外食」「調理食品」などに関するものが多い。

７位は「骨折」366件（2.7％）である。内容としては「自転車」「デイケアサービス」や店舗内の転倒などに関するものが多い。

８位は「呼吸器障害」328件（2.4％）である。内容としては「柔軟仕上げ剤」などの「洗濯用洗浄剤」「賃貸アパート・マンション」「家具類」などに関するものが多い。

９位は「神経・脊髄の損傷」225件（1.6％）である。内容としては「医療サービス」、整体やカイロプラクティックなどの「他の医療サービス」「骨つぎ整復」「四輪自動車」などに関するものが多い。

10位は「中毒」188件（1.4％）である。内容としては「外食」「調理食品」などに関するものが多い。

表20　危害内容別上位10位（消費生活センター）

年度 / 順位	2013年度		
	危害内容	件数	割合（％）
1	皮膚障害	4,030	29.4
2	その他の傷病及び諸症状	3,609	26.3
3	消化器障害	2,015	14.7
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	858	6.3
5	熱傷	765	5.6
6	刺傷・切傷	734	5.4
7	骨折	366	2.7
8	呼吸器障害	328	2.4
9	神経・脊髄の損傷	225	1.6
10	中毒	188	1.4
総件数		**13,700**	**100.0**

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

（4）被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別をみると（**表21**）、女性が9,749件（71.2％）、男性が3,624件（26.4％）で、「化粧品」などの件数の増加により、前年度と比べ女性の割合が増加している。

年代別では、前年度と同じく40歳代が2,232件（16.3％）で最も多く、次いで60歳代と70歳以上は同数で2,186件（16.0％）である。

以下、50歳代2,053件（15.0％）、30歳代1,695件（12.4％）、20歳代1,095件（8.0％）、10歳未満564件（4.1％）、10歳代470件（3.4％）と続いた。すべての年代で件数は増加している。

表21　年代別・性別危害件数（消費生活センター）

性別／年代	男		女		不明		計	
	件数	割合（％）	件数	割合（％）	件数	割合（％）	件数	割合（％）
10歳未満	272	7.5	227	2.3	65	19.9	564	4.1
10歳代	210	5.8	242	2.5	18	5.5	470	3.4
20歳代	249	6.9	844	8.7	2	0.6	1,095	8.0
30歳代	420	11.6	1,269	13.0	6	1.8	1,695	12.4
40歳代	538	14.8	1,692	17.4	2	0.6	2,232	16.3
50歳代	498	13.7	1,549	15.9	6	1.8	2,053	15.0
60歳代	530	14.6	1,653	17.0	3	0.9	2,186	16.0
70歳以上	583	16.1	1,598	16.4	5	1.5	2,186	16.0
不明	324	8.9	675	6.9	220	67.3	1,219	8.9
合　計	**3,624**	**26.5**	**9,749**	**71.2**	**327**	**2.4**	**13,700**	**100**

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

次に、被害者の年代別に危害の多い商品・役務をみると（**表27** 63頁）、10歳未満では、１位は「調理食品」176件で、前年度（４位、15件）から161件増加している。２位は「外食」34件、３位は「菓子類」23件である。６位の屋内遊戯施設などの「遊園地・レジャーランド」、８位の「玩具・遊具その他」、９位の「ベビーカー」が、他の年代では10位以内にない商品・役務である。

10歳代では、１位は「調理食品」175件で、前年度（７位、10件）から165件増加している。２位は「自転車」37件、３位は「化粧品」27件である。２位の「自転車」、７位のカラーコンタクトレンズなどの「メガネ・コンタクトレンズ」が他の年代では10位以内にない商品である。

20歳代では、１位は「エステティックサービス」211件で、前年度（１位、164件）から47件増加している。２位は「調理食品」141件で、前年度（10位、24件）から117件増加している。３位は「美容医療」などの「医療サービス」113件である。７位のまつ毛エクステンションやネイルアートなどの「他の理美容サービス」は、他の年代では10位以内にない役務である。

30歳代では、１位は「化粧品」186件で、前年度（２位、145件）から41件増加している。「化粧品」は30歳代以上の年代では、いずれの年代でも１位となっている。２位は「美容医療」などの「医療サービス」174件で、前年度（３位、121件）から53件増加している。３位は「調理食品」167件で、前年度（７位、54件）から113件増加している。

40歳代では、１位は「化粧品」369件で、前年度（１位、206件）から163件増加している。２位は「調理食品」188件で、前年度（６位、63件）から125件増加している。３位は「美容医療」などの「医療サービス」179件で、前年度（２位、147件）から32件増加している。

50歳代では、１位は「化粧品」459件で、前年度（１位、251件）から208件増加している。２位は「調理食品」165件で、前年度（８位、37件）から128件増加している。３位は「美容医療」などの「医療サービス」140件で、前年度（２位、101件）から39件増加している。

60歳代では、１位は「化粧品」583件で、前年度（１位、332件）から251件増加している。２位は処方薬に関するものなどの「医療サービス」148件で、前年度（２位、117件）から31件増加している。３位は「調理食品」141件で、前年度（５位、45件）から96件増加している。

70歳以上では、１位は「化粧品」475件で、前年度（１位、273件）から202件増加している。２位は「健康食品」237件で、前年度（２位、212件）から25件増加している。３位は処方薬に関するものなどの「医療サービス」189件であり、前年度（３位、156件）から33件増加している。５位「家庭用電気治療器具」と９位「デイケアサービス」が、他の年代では10位以内にない商品・役務である。

「調理食品」は、どの年代でも件数、順位が大きく上昇し、「化粧品」は30歳代以上の年代で件数が大きく増加している。また、「柔軟仕上げ剤」などの「洗濯用洗浄剤」は、前年度はいずれの年代でも10位以内になかったものであるが、40歳代、50歳代、60歳代では５位、30歳代では７位となっている。

（5）上位３商品･役務における危害情報の概要

危害情報の上位３商品･役務である「化粧品」「調理食品」「医療サービス」の危害内容等は次のとおりである（**表24** 61頁、**表26** 62頁）。

①化粧品（2,313件）

性別では、女性が2,162件（93.5％）と９割以上を占めている。年代別では、60歳代が583件（25.2％）で最も多く、次いで70歳以上475件（20.5％）、50歳代459件（19.8％）の順である。

「化粧品」の内訳をみると、「基礎化粧品（全般）」478件（20.7％）と「化粧水」438件（18.9％）、「乳液」242件（10.5％）、「化粧クリーム」226件（9.8％）で約６割を占めている。危害内容は「皮膚障害」が2,122件（91.7％）と全体の約９割を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」140件（6.1％）、「呼吸器障害」15件（0.6％）、「感覚機能の低下」12件（0.5％）の順である。

＜事例＞

・化粧品店で５年以上同じメーカーの化粧品を購入してきた。美白効果は高額の商品のほうが高いだろうと思って使用していたが、腕に白い斑点ができた（60歳代・女性）。
・基礎化粧品のトライアルセットを利用し始めて、使用３日目にまぶた、耳、頬に赤い発疹が出た（50歳代・女性）。
・自宅で白髪を染めていたら、液垂れで目に入り視力が低下した（50歳代・女性）。
・海外製の未承認の育毛剤をネットで購入、長期間使っていたが最近になり頭皮がかぶれてしまった（40歳代・男性）。
・ホテルで親族の結婚式があり、新郎新婦が配った小さな引き出物をもらった。翌日にお菓子だと思い込んでかじったらせっけんだった。すぐ吐き出したが一部飲み込んでしまった。小さな直方体のせっけんを包装紙でくるんでリボンが掛けてあり、口に入れるまで気づかなかった。ケーキや羊かんのような見た目だった（70歳以上・女性）。

②調理食品（1,407件）

性別では、女性が729件（51.8％）、男性が586件（41.6％）となっている。年代別では、40歳代が188件（13.4％）で最も多く、次いで10歳未満が176件（12.5％）、10歳代175件（12.4％）の順である。

「調理食品」の内訳をみると、「冷凍調理食品」1,071件（76.1％）が最も多く、次いで「弁当」142件（10.1％）、即席みそ汁などの「他の調理食品」72件（5.1％）、「フライ類」27件（1.9％）、「調理パン」22件（1.6％）と続く。危害内容は「消化器障害」1,059件（75.3％）が最も多く、次いで「その他の傷病及び諸症状」159件（11.3％）、「中毒」50件（3.6％）、「皮膚障害」と「刺傷・切傷」48件（3.4％）の順である。

＜事例＞

・農薬混入で回収されている冷凍食品のうち、クリームコロッケを、12月中旬に自分と３歳の娘が食べた。においや味に異変は感じられなかったが、娘がおう吐と下痢をした（10歳未満・女児）。
・元々、卵アレルギーがあったが、マヨネーズ入りおにぎりを購入した。原材料としてマヨネーズを使っているものの、卵のアレルギー表示がないため、大丈夫と思っていたが、食べたところ、軽いアレルギー症状が出た（10歳代・性別不明）。
・スーパーで総菜を購入したらプラスチック片が混入していて口腔内が切れた（50歳代・女性）。
・電子レンジで温めるだけのパック入りのうどんを購入。表示より少なめにレンジで加熱した。卵をかんだ瞬間に破裂して唇をやけどした（30歳代・男性）。
・コンビニで消費期限切れの弁当が販売されており、知らずに購入し食べた。気持ちが悪く、おなかが痛い（40歳代・男性）。

③医療サービス（1,056件）

性別では、女性が791件（74.9％）と７割を占めている。年代別では、70歳以上が189件（17.9％）で最も多く、次いで40歳代179件（17.0％）、30歳代174件（16.5％）の順である。

「医療サービス」の内訳をみると、「美容医療」に関するものは467件であり、44.2％を占めている。

危害内容は「その他の傷病及び諸症状」が546件（51.7％）と半数を占め、次いで「皮膚障害」253件（24.0％）、「熱傷」51件（4.8％）、「感覚機能の低下」47件（4.5％）の順である。

＜事例＞

・美容クリニックからＤＭが来たので、顔のリフトアップの施術を受けた。顔の腫れ、ひきつりがあり、効果もない（50歳代・女性）。
・クーポンサイトで医療レーザー脱毛チケットを購入し施術を受けたが、両腕のひじ下をやけどし、皮膚が白くなった（20歳代・女性）。
・３年前にアトピー性皮膚炎の漢方クリームを処方してもらっていた。ステロイドが入っていたのでリバウンドしてしまった（30歳代・男性）。
・美容クリニックに行き、レーザー治療でシミ取りをしたら皮膚が腫れ、やけどのような状態になり水膨れになった（40歳代・女性）。
・２年前から病院で処方された高血圧治療薬を服用していたら、４カ月前、からだ中に水膨れや湿疹ができ、皮膚科で副作用と診断された（70歳以上・女性）。

3 消費生活センターに寄せられた危険情報の概要

2013年度に消費生活センターから収集した危険情報は6,903件で、前年度（4,170件）と比べると2,733件もの増加（前年度比65.5％の増加）である（**表18** 47頁、**図10** 48頁）。

これは、冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するもの（2,211件）などにより、前年度２位の「調理食品」が2,299件増加したことが大きく影響している。

（1）危険情報の商品等分類別件数

危険情報を商品等分類別にみると（**表22** 55頁）、最も多かったのは「調理食品」「菓子類」などの「食料品」2,924件（42.4％）である。「調理食品」が2,299件増加したため、前年度（３位、456件）から2,468件増加し、順位も上昇している。

２位は「電子レンジ類」などの「住居品」1,551件（22.5％）である。前年度（１位、1,374件）から順位は下がったものの、「室内照明器具」の29件の増加、「電気洗濯乾燥機」の21件の増加を含め、177件増加している。

３位は「四輪自動車」「自転車」などの「車両・乗り物」875件（12.7％）である。前年度（２位、940件）から65件減少したため、順位が下がっている。

４位は「携帯電話」などの「教養娯楽品」481件（7.0％）で、前年度（４位、421件）から60件増加している。

５位は「ヘアケア用具」などの「保健衛生品」と、「戸建住宅」などの「土地・建物・設備」213件（3.1％）である。「保健衛生品」は、「化粧品」の17件の増加を含め、前年度（５位、190件）から23件増加し、「土地・建物・設備」は、大雪により車庫が破損した事案に関するものを含め、前年度（６位、185件）から28件増加している。

７位から10位は、７位が「医療サービス」などの「保健・福祉サービス」100件（1.4％）、８位が四輪自動車の「修理サービス」などの「修理・補修」92件（1.3％）、９位が「電池」を含む「他の光熱水品」などの「光熱水品」90件（1.3％）、10位が「外食」などの「他のサービス」86件（1.2％）である。

（2）危険情報の商品・役務別件数

危険情報を商品・役務別にみると（**表25** 61頁）、最も多かったのは「調理食品」2,419件（35.0％）である。冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するもの2,211件などにより、前年度（２位、120件）から2,299件増加し、順位も上昇している。

２位は「四輪自動車」563件（8.2％）である。前年度（１位、655件）から92件減少したため、順位が下がっている。

３位は「菓子類」155件（2.2％）である。自主回収品を含め「まんじゅう」が29件増加し、前年度（10位、73件）から82件増加し、順位も大きく上昇している。

４位は「携帯電話」130件（1.9％）である。前年度（３位、108件）から順位は下がったものの、スマートフォンの充電端子の焼損や本体の発熱等の事案などにより22件増加している。

５位は「自転車」111件（1.6％）である。前年度（５位、93件）と同じ順位であるが、18件増加している。

表22　危険情報の商品等分類別件数および主な商品・役務（消費生活センター）

商品等分類	件数	割合(%)	主な商品・役務
食料品	2,924	42.4	調理食品（2,419）、菓子類（155）、飲料（43）、パン類（40）、他の魚介加工品（36）
住居品	1,551	22.5	電子レンジ類（107）、家具類（99）、室内照明器具（70）、電球類（68）、電気掃除機類（67）
光熱水品	90	1.3	他の光熱水品（42）、石油（32）、プロパンガス（7）、電気（6）
被服品	68	1.0	靴・運動靴（20）、婦人洋服（13）、他の身の回り品（6）、子供洋服（5）
保健衛生品	213	3.1	ヘアケア用具（48）、他の保健衛生用品（36）、化粧品（30）、メガネ・コンタクトレンズ（17）、医薬品類（12）
教養娯楽品	481	7.0	携帯電話（130）、電話関連機器・用品（65）、パソコン（42）、テレビ（34）、タバコ用品（30）
車両・乗り物	875	12.7	四輪自動車（563）、自転車（111）、自動二輪車（68）、他の自動車用品類（32）、自動車部品（19）
土地・建物・設備	213	3.1	戸建住宅（28）、屋外装備品その他（27）、温水ボイラー（18）、建具（16）、瞬間湯沸器（15）
クリーニング	2	0.1%未満	
レンタル・リース・貸借	78	1.1	賃貸アパート・マンション（47）、レンタカー（9）、借家（9）
工事・建築・加工	67	1.0	新築工事（18）、他の工事･建築サービス（10）、増改築工事（9）、屋根工事（6）、内装工事（5）、塗装工事（5）
修理・補修	92	1.3	修理サービス（69）、車検サービス（23）
運輸・通信サービス	26	0.4	移動通信サービス（7）、引越（5）
教養・娯楽サービス	15	0.2	
保健・福祉サービス	100	1.4	医療サービス（79）、歯科治療（5）
他のサービス	86	1.2	外食（58）、他の役務サービス（6）
その他	22	0.3	商品一般（11）、他の商品（11）
合　計	**6,903**	**100**	

（注）「主な商品・役務」は各商品等分類における上位５位の商品・役務。ただし、５件未満は除く。2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

６位から10位は、６位が「電子レンジ類」107件（1.6%）、７位が「いす類」などの「家具類」99件（1.4%）、８位がステロイド不使用をうたった医療機関で処方された漢方クリームにステロイドが含有されていた事案などの「医療サービス」79件（1.1%）、９位が「室内照明器具」70件（1.0%）、10位が「修理サービス」69件（1.0%）である。

(3) 危険内容

危険内容では、最も多かったのは「異物の混入」2,845件（41.2%）である（**表23** 56頁）。内容としては「調理食品」などに関するものが多い。「調理食品」の2,282件の増加を含め、前年度（３位、481件）から2,364件増加し、順位も上昇している（**表28** 64頁）。

２位は「過熱・こげる」581件（8.4%）である。内容としては「携帯電話」「電話関連機器・用品」などに関するものが多い。「電話関連機器・用品」の26件の増加を含め、前年度（５位、451件）から130件増加し、順位も上昇している。

３位は「発煙・火花」580件（8.4%）である。内容としては「電子レンジ類」「四輪自動車」「電気掃除機類」などに関するものが多い。前年度（２位、499件）から順位は下がったものの、「電子レンジ類」の17件の増加、「携帯電話」の15件の増加などを含め、81件増加している。

４位は「機能故障」573件（8.3%）である。内容としては「四輪自動車」「自動二輪車」などに関するものが多い。「四輪自動車」の38件の減少により、前年度（１位、611件）から38件減少し、順位も下がっている。

５位は「破損・折損」482件（7.0％）である。内容としては「家具類」「自転車」「四輪自動車」などに関するものが多い。前年度（４位、455件）から順位は下がったものの、「自転車」の15件の増加を含め、27件増加している。

６位は「その他」442件（6.4％）である。内容としては「医療サービス」などに関するものが多い。

７位は「発火･引火」313件（4.5％）である。内容としては「電子レンジ類」などに関するものが多い。

８位は「破裂」196件（2.8％）である。内容としては「消火器」などに関するものが多い。

９位は「部品脱落」162件（2.3％）である。内容としては「自転車」「四輪自動車」「電球類」などに関するものが多い。

10位は「燃料・液漏れ等」145件（2.1％）である。内容としては「四輪自動車」「電池」などの「他の光熱水品」などに関するものが多い。

表23　危険内容別上位10位（消費生活センター）

年度／順位	2013年度		
	危険内容	件数	割合（％）
1	異物の混入	2,845	41.2
2	過熱・こげる	581	8.4
3	発煙・火花	580	8.4
4	機能故障	573	8.3
5	破損・折損	482	7.0
6	その他	442	6.4
7	発火・引火	313	4.5
8	破裂	196	2.8
9	部品脱落	162	2.3
10	燃料・液漏れ等	145	2.1
総件数		**6,903**	**100.0**

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

（4）上位３商品･役務における危険情報の概要

危険情報の上位３商品･役務である「調理食品」「四輪自動車」「菓子類」の危険内容等は次のとおりである（**表25** 61頁、**表28** 64頁）。

①調理食品（2,419件）

「調理食品」の内訳をみると、「冷凍調理食品」2,283件（94.4％）が９割を占めており、次いで「弁当」が39件（1.6％）、即席みそ汁などの「他の調理食品」26件（1.1％）、「レトルト調理食品」12件（0.5％）、「フライ類」11件（0.5％）と続く。危険内容は「異物の混入」の2,389件（98.8％）がほとんどを占めた。

＜事例＞

・農薬が検出された回収対象の冷凍グラタンが２袋ある。２つ入りの１袋を開けて、１つは食べてしまった。

・以前購入した冷凍ピザが農薬付着報道の工場製だと分かった。賞味期限は分かるが該当商品かどうか分からない。

・デパートの地下でパック入りの野菜サラダを購入し、自宅で娘が食べたら、野菜の中にプラスチッ

ク片が混入していた。
・肉屋で弁当を購入。容器ごと電子レンジに入れて温めようとしたら容器が燃えた。容器には電子レンジ不可の表示がなかった。
・夜、コンビニで弁当を買ったところ消費期限から９時間も過ぎていた。

②四輪自動車（563件）

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」395件（70.2％）が最も多く、次いで「軽自動車」140件（24.9％）である。危険内容は「機能故障」364件（64.7％）が最も多く、次いで「発煙・火花」35件（6.2％）、「破損・折損」34件（6.0％）の順である。

＜事例＞

・普通車のインテリジェントキーが誤作動し、生後３カ月の赤ん坊が車内に閉じ込められた。
・外車を購入したが、納車３日目にアイドリングストップした後、急に発進した。ディーラーはプログラムの不具合と言っているが、いつ修理できるか分からない。
・３年前に購入した自動車が、高速道路のゲートで急に自動ブレーキ装置が作動してしまった。
・購入した新しい自動車は右斜め前のフレームが太いため視界に死角ができる。運転しづらく柱に車をぶつけた。
・ネットで４輪バギーを契約。納車２日目にチェーンが切れたため安心して乗れない。

③菓子類（155件）

「菓子類」の内訳をみると、「まんじゅう」35件（22.6％）が最も多く、次いで「ケーキ」18件（11.6％）、「チョコレート」15件（9.7％）、「せんべい」14件（9.0％）と続く。危険内容では「異物の混入」98件（63.2％）が最も多かった。

＜事例＞

・大手メーカー製のまんじゅう５個入りパックを購入した。まだ食べていない。新聞報道で、カルキ臭のする商品があることが判明し、自主回収していると知った。メーカーに電話をかけているがまったくつながらない。
・アレルギーを持つ子どものためにアレルゲン除去のケーキを注文したにもかかわらず、通常のケーキを渡された。
・トリュフチョコレートを食べたら固いものがあった。口から出してみると１㎝くらいのネジのようなものが入っていた。口の中は傷ついていない。
・スーパーでせんべいを買った。息子がせんべいを食べたら、中から1.3㎝の細い針金が出てきた。けがをすることがなかったが、危険ではないか。
・スーパーでアイスクリームを購入した。自分でドライアイスを機械から取り出し、専用の備え付けのビニール袋に入れて持ち帰った。帰宅したら、ドライアイスを入れていた袋が膨らみ破裂し、ドライアイスが飛び散った。

4 消費生活センターに寄せられた危害・危険事例

（1）死亡事故事例

①風呂釜

入浴していた家族が、風呂釜が原因の一酸化炭素中毒で死亡した（年齢不明・性別不明）。

②電動ベッド

家族が病院の電動ベッドの手すりの間に首を挟まれ死亡した。ベッドの片側に手すりが２本あり、メーカーは事故防止のために２本の間をつなぐ部品の取り付けを案内していたが、付いていなかった（60歳代・女性）。

③ダイビング機器

夫がダイビング中に死亡した。マウスピースが浮いており、マウスピースがレギュレーターから外れたため、水を大量に飲み込み、亡くなったのではないか（年齢不明・男性）。

（2）後遺症が残る可能性の大きい事故例と重症事故例

①ペダルなし二輪遊具

公道での走行は禁止されている幼児向けのペダルなし二輪遊具に乗っていた男児が、団地内の坂道で止まることができずに衝突し、小枝が目の付近に刺さり重傷を負った（10歳未満・男児）。

②カラーコンタクトレンズ

中学３年生の娘が量販店でカラーコンタクトレンズをファッション用に買い、寝るとき以外は１カ月間、ずっと装着していたようだ。両目に痛みを感じ目が開けられなくなったと言うので眼科に連れて行ったら、医師に「角膜に傷が付いている。失明の可能性もあるので大きな病院を紹介する」と言われた（10歳代・女性）。

③海外で購入した漢方薬

糖尿病の持病のある人が、海外で購入した漢方薬を飲んで低血糖状態に陥り、意識がない状態で運ばれた。とても危険な状態だったので処置をしないと死亡に至っていた可能性もあった（60歳代・女性）。

④電気足温器

インターネットで購入した電気足温器で低温やけどを負い化膿が原因で指を切断した（50歳代・男性）。

⑤レーシック

インターネットで有名人が出ている広告を見て眼科を訪れ、レーシック手術を受けた。手術後、遠視になってしまい、頭痛や目の痛み、吐き気があり仕事ができない（30歳代・女性）。

（3）知っている人が少ないと思われる事故例

①花粉防御用眼鏡

子どもに、花粉防御用眼鏡をインターネットで買って着用させていた。学校の掃除の時間に、雑巾がけをしていてつまずき、顔から落ちて、眉の所を少し切り、目の近くに打撲痕ができ、目が充血した（10歳未満・女児）。

②スマートフォン

５カ月前にスマートフォンを契約。就寝中に充電器が顔の左側に接触し低温やけどになった（30歳代・女性）。

③キャンドルブッシュを含む健康茶

インターネットで購入したハーブティーを飲んだ後、気分が高揚したり、お腹の調子が悪くなるときがあった。妙な成分が入っていたのではないかと感じる。ハブ茶やキャンドルブッシュが主に使用されているようだ（30歳代・女性）。

④柔軟仕上げ剤

マンションのベランダ越しに柔軟剤のにおいがきつく、せきが出て、頭が痛くなる。ベランダが居間に面しているので、夏でも窓が開けられない（50歳代・女性）。

⑤規制後のライター

簡易ライターを使用。スイッチが固く親指の関節が外れた（70歳以上・男性）。

（4）目新しい商品・役務による事故例

①通気性のよいベビーカー

通気性が11倍というので買ったベビーカーが景品表示法違反で措置命令を受けた。子どものお尻があせもでひどくなり、皮膚科に行って塗り薬をもらってつけている（10歳未満・男児）。

②携帯型空間除菌剤

子どもがインフルエンザに効くという首から下げるカードをポケットに入れていたのを知らず、そのまま休ませていたところ、大腿部にやけどを負った（10歳代・男性）。

③炭酸水製造機

炭酸水製造機を初めて購入したので、製品のマニュアルどおりにやることにした。炭酸ガスカートリッジをヘッド部分に入れて、ヘッド部分を回した途端にボトルが真上に破裂して、ヘッドを押さえていた右手を突き抜けて飛んで行った。右手を見ると、人差し指と親指の付け根から血が噴き出していた。その破裂したボトルは天井に突き刺さったままで落ちてこない（20歳代・女性）。

④角質除去グッズ

インターネットで買った足の角質除去グッズを取扱説明書どおりに使ったら、皮膚障害が起こり皮

膚科の治療を受けた（40歳代・男性）。

⑤脂肪冷凍痩身機を使用したエステ

エステティック店で腹部と二の腕に脂肪冷凍痩身機の施術を受けたら、腹痛と、うつぶせで重い機器を乗せられたため腕と指のしびれが起きた。広告には４℃で施術と書かれていたがもっと温度が低いと思う（50歳代・女性）。

5 医療機関ネットワークの情報とその活用

(1) 情報の収集

医療機関ネットワークから収集した情報（基本情報）は、2012年度までは13医療機関からの収集であったが、2013年度は24医療機関からの収集となったため、6,906件となり、前年度の5,003件と比べると1,903件の増加（前年度比38.0％の増加）である（**表18** 47頁、**図10** 48頁）。

収集した基本情報のうち、依頼に基づいて、医療機関がさらに詳しい内容を聞き取った情報（詳細情報）は169件である。

さらに、以下の３件については現地調査等を実施している。

・医薬品の誤飲事故（消費者庁）
・プラスチックキャップの誤飲事故（国民生活センター、電話による聞き取り調査）
・乾電池の液漏れ誤飲事故（国民生活センター、電話による聞き取り調査）

(2) 情報の活用

医療機関ネットワークの情報を活用した消費者への注意喚起は以下のとおりである（**表29** 65頁）。

・「商業施設内の屋内遊戯施設における子どもの事故」2013年６月６日国民生活センター公表
・「ジャンプ式の折りたたみ傘及び乳幼児用のいすの事故に気をつけて！－新たに「取扱い上の注意」の表示が義務付けられました－」2013年６月11日消費者庁公表
・「刈払機（草刈機）の使い方に注意－指の切断や目に障害を負う事故も－」2013年７月４日国民生活センター公表
・「子ども用の花粉防御用眼鏡の安全性－衝突や転倒などによる目の周辺のけがを防ぐために－」2013年８月22日国民生活センター公表
・「高齢者の餅による窒息事故に気を付けて！－年末年始は餅による窒息事故が増えます。注意して餅を食べましょう－」2013年12月18日消費者庁公表
・「子ども用の花粉防御用眼鏡の安全性（再注意喚起）－衝突や転倒などによる目の周辺のけがを防ぐために－」2014年２月６日国民生活センター公表

表24　危害情報の上位10商品・役務の推移（消費生活センター）

順位	2009年度　8,217件			2010年度　8,595件			2011年度　11,493件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	医療サービス	640	7.8	医療サービス	712	8.3	化粧品	3,447	30.0
2	化粧品	638	7.8	化粧品	649	7.6	医療サービス	728	6.3
3	エステティックサービス	610	7.4	エステティックサービス	593	6.9	エステティックサービス	616	5.4
4	健康食品	459	5.6	健康食品	423	4.9	健康食品	533	4.6
5	外食	363	4.4	外食	335	3.9	外食	438	3.8
6	調理食品	241	2.9	美容院	250	2.9	歯科治療	296	2.6
7	美容院	227	2.8	調理食品	246	2.9	美容院	273	2.4
8	家具類	198	2.4	歯科治療	241	2.8	調理食品	252	2.2
9	歯科治療	191	2.3	家具類	240	2.8	家具類	218	1.9
10	飲料	168	2.0	菓子類	173	2.0	飲料	199	1.7

順位	2012年度　10,599件			2013年度　13,700件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	化粧品	1,405	13.3	化粧品	2,313	16.9
2	医療サービス	850	8.0	調理食品	1,407	10.3
3	エステティックサービス	590	5.6	医療サービス	1,056	7.7
4	健康食品	532	5.0	エステティックサービス	661	4.8
5	外食	466	4.4	健康食品	655	4.8
6	歯科治療	380	3.6	外食	459	3.4
7	美容院	335	3.2	洗濯用洗浄剤	317	2.3
8	調理食品	314	3.0	歯科治療	301	2.2
9	家具類	218	2.1	美容院	300	2.2
10	飲料	216	2.0	飲料	259	1.9

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

表25　危険情報の上位10商品・役務の推移（消費生活センター）

順位	2009年度　3,614件			2010年度　4,106件			2011年度　3,702件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	四輪自動車	542	15.0	四輪自動車	639	15.6	四輪自動車	490	13.2
2	電子レンジ類	125	3.5	電子レンジ類	115	2.8	化粧品	128	3.5
3	テレビ	96	2.7	テレビ	113	2.8	電子レンジ類	89	2.4
4	自転車	88	2.4	自転車	111	2.7	自動二輪車	82	2.2
5	家具類	85	2.4	家具類	103	2.5	菓子類	81	2.2
6	ハロゲンヒーター	83	2.3	自動二輪車	83	2.0	家具類	79	2.1
7	室内照明器具	74	2.0	消火器	83	2.0	自転車	74	2.0
8	修理サービス	73	2.0	石油ファン･クリーンヒーター	82	2.0	電気掃除機類	64	1.7
9	自動二輪車	73	2.0	菓子類	74	1.8	調理食品	63	1.7
10	鍋類	68	1.9	他の住居用電気器具	73	1.8	テレビ	60	1.6

順位	2012年度　4,170件			2013年度　6,903件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	四輪自動車	655	15.7	調理食品	2,419	35.0
2	調理食品	120	2.9	四輪自動車	563	8.2
3	携帯電話	108	2.6	菓子類	155	2.2
4	家具類	96	2.3	携帯電話	130	1.9
5	自動二輪車	93	2.2	自転車	111	1.6
6	自転車	93	2.2	電子レンジ類	107	1.6
7	修理サービス	89	2.1	家具類	99	1.4
8	電子レンジ類	87	2.1	医療サービス	79	1.1
9	電球類	85	2.0	室内照明器具	70	1.0
10	菓子類	73	1.8	修理サービス	69	1.0

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

表26　危害情報の上位商品・役務の危害内容（消費生活センター）

危害内容／商品・役務	危害内容																				2013年度計	割合（%）
	骨折	脱臼・捻挫	切断	擦過傷・挫傷・打撲傷	刺傷・切傷	頭蓋（内）損傷	内臓損傷	神経・脊髄の損傷	筋・腱の損傷	窒息	感覚機能の低下	熱傷	凍傷	皮膚障害	感電障害	中毒	呼吸器障害	消化器障害	その他の傷病及び諸症状	不明		
全体	**366**	**80**	**3**	**858**	**734**	**32**	**15**	**225**	**73**	**21**	**181**	**765**	**18**	**4,030**	**16**	**188**	**328**	**2,015**	**3,609**	**143**	**13,700**	**100.0**
化粧品	0	0	0	6	7	0	0	0	0	0	12	4	0	2,122	0	0	15	6	140	1	**2,313**	**16.9**
調理食品	0	0	0	7	48	0	1	0	0	2	3	16	0	48	0	50	6	1,059	159	8	**1,407**	**10.3**
医療サービス	14	1	1	11	15	9	9	19	4	3	47	51	2	253	1	1	4	20	546	45	**1,056**	**7.7**
エステティックサービス	8	1	0	83	3	0	0	11	7	0	10	120	7	283	0	0	0	11	116	1	**661**	**4.8**
健康食品	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	180	0	1	6	251	210	2	**655**	**4.8**
外食	9	4	0	21	51	0	0	10	0	2	0	47	0	18	0	81	7	126	82	1	**459**	**3.4**
洗濯用洗浄剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0	0	52	6	231	2	**317**	**2.3**
歯科治療	0	0	0	8	22	0	0	7	0	0	6	9	0	9	0	0	2	5	230	3	**301**	**2.2**
美容院	3	0	0	9	16	0	0	8	1	0	4	33	0	147	0	0	0	0	79	0	**300**	**2.2**
飲料	0	0	0	5	14	0	0	2	0	0	2	12	0	26	0	2	2	115	77	2	**259**	**1.9**
家具類	2	0	0	39	32	0	0	11	1	0	0	3	0	27	0	0	20	0	64	0	**199**	**1.5**
商品一般	41	19	0	67	16	0	1	12	4	0	0	3	1	1	0	0	0	2	26	6	**199**	**1.5**
医薬品類	0	0	0	4	2	0	0	1	0	0	4	3	0	90	0	0	7	15	68	0	**194**	**1.4**
菓子類	0	0	0	5	25	0	0	0	0	4	3	2	2	13	0	1	6	65	60	0	**186**	**1.4**
賃貸アパート・マンション	2	3	0	9	7	0	0	0	0	0	2	2	0	33	0	1	28	5	85	5	**182**	**1.3**
他の保健衛生用品	0	0	0	5	3	0	1	0	1	0	5	32	1	64	0	0	13	2	18	1	**146**	**1.1**
自転車	33	7	0	71	10	0	0	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	**138**	**1.0**
他の理美容サービス	0	0	0	9	13	0	0	1	0	0	3	9	0	37	0	0	0	0	57	2	**131**	**1.0**
家庭用電気治療器具	2	0	0	7	0	1	0	1	1	0	2	10	0	15	0	0	3	2	84	2	**130**	**0.9**
靴・運動靴	8	4	0	55	13	0	0	1	2	0	0	0	0	14	0	0	0	0	26	1	**124**	**0.9**

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

表27　危害情報の年代別上位商品・役務（消費生活センター）

年代＼順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満	調理食品 176	外食 34	菓子類 23	飲料 21	家具類 19
10歳代	調理食品 175	自転車 37	化粧品 27	外食 22	医療サービス 15
20歳代	エステティックサービス 211	調理食品 141	医療サービス 113	化粧品 80	外食 59
30歳代	化粧品 186	医療サービス 174	調理食品 167	エステティックサービス 160	外食 84
40歳代	化粧品 369	調理食品 188	医療サービス 179	エステティックサービス 156	洗濯用洗浄剤 78
50歳代	化粧品 459	調理食品 165	医療サービス 140	健康食品 95	洗濯用洗浄剤 71
60歳代	化粧品 583	医療サービス 148	調理食品 141	健康食品 127	洗濯用洗浄剤 69
70歳以上	化粧品 475	健康食品 237	医療サービス 189	調理食品 99	家庭用電気治療器具 67
不明	調理食品 155	化粧品 129	医療サービス 88	外食 67	健康食品 47

年代＼順位	6位	7位	8位	9位	10位	累計（%）
10歳未満	遊園地・レジャーランド 16	商品一般 15	玩具・遊具その他 12	ベビーカー 11	他の保健衛生用品 11	**59.9**
10歳代	美容院 14	メガネ・コンタクトレンズ 10	エステティックサービス 9	健康食品 8	菓子類 8	**69.1**
20歳代	美容院 53	他の理美容サービス 45	賃貸アパート・マンション 33	健康食品 24	歯科治療 16	**70.8**
30歳代	美容院 57	洗濯用洗浄剤 46	健康食品 45	賃貸アパート・マンション 44	歯科治療 41	**59.2**
40歳代	外食 76	健康食品 72	美容院 65	歯科治療 47	飲料 43	**57.0**
50歳代	外食 59	エステティックサービス 58	歯科治療 56	美容院 48	商品一般 37	**57.9**
60歳代	歯科治療 62	医薬品類 52	飲料 49	外食 41	他の保健衛生用品 34	**59.7**
70歳以上	飲料 56	歯科治療 46	商品一般 44	デイケアサービス 43	医薬品類 43	**59.4**
不明	エステティックサービス 32	飲料 30	歯科治療 24	菓子類 21	賃貸アパート・マンション 21	**50.4**
					累計　13,700	**59.3**

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

表28　危険情報の上位商品・役務の危険内容（消費生活センター）

危険内容／商品・役務	危険内容																					2013年度計	割合（%）
	火災	発火・引火	発煙・火花	過熱・こげる	ガス爆発	ガス漏れ	点火・燃焼・消火不良	漏電・電波等の障害	燃料・液漏れ等	化学物質による危険	破裂	破損・折損	部品脱落	機能故障	転落・転倒・不安定	バリ・鋭利	操作・使用性の欠落	腐敗・変質	異物の混入	異物の侵入	その他	不明		
全体	**59**	**313**	**580**	**581**	**4**	**35**	**91**	**37**	**145**	**78**	**196**	**482**	**162**	**573**	**75**	**12**	**130**	**57**	**2,845**	**4**	**442**	**2**	**6,903**	**100.0**
調理食品	0	5	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5	2,389	0	13	1	**2,419**	**35.0**
四輪自動車	14	13	35	17	0	0	0	0	25	1	6	34	24	364	0	1	10	0	0	0	19	0	**563**	**8.2**
菓子類	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3	6	0	0	0	1	0	16	98	1	27	0	**155**	**2.2**
携帯電話	1	13	21	89	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	**130**	**1.9**
自転車	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	55	26	19	2	0	3	0	0	0	3	0	**111**	**1.6**
電子レンジ類	2	30	44	8	0	0	0	3	0	0	5	3	0	8	0	0	1	0	0	0	3	0	**107**	**1.6**
家具類	0	1	2	4	0	0	0	0	0	1	2	58	9	0	10	1	9	0	0	0	2	0	**99**	**1.4**
医療サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	31	0	**79**	**1.1**
室内照明器具	0	7	27	23	0	0	0	1	1	0	2	3	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	**70**	**1.0**
修理サービス	0	2	10	5	0	0	2	0	7	0	1	6	5	24	0	1	0	0	1	0	5	0	**69**	**1.0**
電球類	0	3	5	22	0	0	0	0	0	0	10	5	21	0	2	0	0	0	0	0	0	0	**68**	**1.0**
自動二輪車	5	0	3	2	0	0	1	0	9	0	0	7	2	37	0	0	1	0	0	0	1	0	**68**	**1.0**
電気掃除機類	0	7	35	18	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	**67**	**1.0**
電話関連機器・用品	0	15	5	30	0	0	0	0	0	0	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	**65**	**0.9**
石油ファン・クリーンヒーター	3	6	18	9	0	0	8	0	9	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	**58**	**0.8**
外食	0	3	0	3	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1	0	0	0	5	38	0	4	0	**58**	**0.8**
消火器	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	**58**	**0.8**
他の住居用電気器具	3	11	12	24	1	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	**57**	**0.8**
電気洗濯乾燥機	0	1	9	8	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	**50**	**0.7**
ヘアケア用具	0	14	22	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	**48**	**0.7**

（注）2014年５月末日までの登録分。国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いたもの。

表29　医療機関ネットワークの情報の活用実績

公表テーマ名等	公表（注意喚起）	リーフレット「くらしの危険」	メールマガジン		
			見守り新鮮情報	子どもサポート情報	子ども安全メール（消費者庁）
子ども用の花粉防御用眼鏡による顔のけがに注意					130号※ 2013年4月4日
乳幼児の歯ブラシによる事故に注意！		No.313※ 2013年5月発行		64号※ 2013年6月4日	133号※ 2013年4月25日
スライサーを安全に使うには－安全ホルダーの使用性を中心に－		No.314※ 2013年8月発行			
乳幼児用ベッドの使用上のご注意					135号 2013年5月9日
アイロンによるやけどの事故にご注意！					137号 2013年5月23日
商業施設内の屋内遊戯施設における子どもの事故	2013年6月6日 国民生活センター	No.316※ 2014年1月発行		65号※ 2013年7月5日	142号※ 2013年6月27日
ジャンプ式の折りたたみ傘及び乳幼児用のいすの事故に気をつけて！－新たに「取扱い上の注意」の表示が義務付けられました－	2013年6月11日 消費者庁				141号※ 2013年6月20日
刈払機（草刈機）の使い方に注意－指の切断や目に障害を負う事故も－	2013年7月4日 国民生活センター	No.315※ 2013年9月発行			
エスカレーターでの事故に気をつけて！			168号 2013年7月11日		
赤ちゃんを大人用ベッドに１人で寝かせないで！					148号 2013年8月8日
子ども用の花粉防御用眼鏡の安全性－衝突や転倒などによる目の周辺のけがを防ぐために－	2013年8月22日 国民生活センター				
バウンサー（乳幼児用揺動シート）からの転落事故にご注意！					155号 2013年9月26日
ペットボトルのラベルで窒息！？の危険					156号 2013年10月3日
カップラーメンの待ち時間で子どもがやけど！？					157号 2013年10月10日
錠剤の誤飲にご注意！					158号 2013年10月17日
背の低い家具でも下敷きに！					159号 2013年10月24日
ショッピングカートからの転落にご注意！					160号 2013年10月31日
子どもの上に電子レンジが落下！？					162号 2013年11月14日
ベビーカーに子どもを乗せる際は必ずベルトを着用しましょう。					163号 2013年11月21日
ストーブ等の床に置くタイプの暖房器具でのやけどに注意しましょう。					165号 2013年12月5日
注意！服に火が燃え移ってやけど！			178号 2013年12月6日		
ふかふかの寝具による窒息にご注意！					166号 2013年12月12日
高齢者の餅による窒息事故に気を付けて！－年末年始は餅による窒息事故が増えます。注意して餅を食べましょう－	2013年12月18日 消費者庁				
子どもを自転車に乗せたときの転倒に注意！					167号※ 2013年12月19日
灯油を誤飲した場合は、絶対に吐かせてはいけません。					168号 2013年12月26日
公共交通機関でのベビーカーの利用に気を付けて！（1）					170号 2014年1月16日
公共交通機関でのベビーカーの利用に気を付けて！（2）					171号 2014年1月23日
子ども用の花粉防御用眼鏡の安全性（再注意喚起）－衝突や転倒などによる目の周辺のけがを防ぐために－	2014年2月6日 国民生活センター	No.318※ 2014年3月発行			
御注意！子どもは鼻や耳にビーズ等を入れるのが大好き！！					175号 2014年2月20日

（注１）「公表テーマ名等」の名称は公表（注意喚起）の資料名を優先しており、公表（注意喚起）を行わずに、リーフレット、メールマガジンだけで活用したものは、各媒体の資料名としている。
（注２）※は過去年度を含む公表（注意喚起）の資料名を「公表テーマ名等」の名称としているため、各媒体の資料名と異なる場合がある。